

## 直山木綿子先生からの指導・助言

### 第1回研究授業 6月7日 3年 「Unit4 I like blue.」

『自分で英語表現を勝ち取った』という思いにさせる。メタ認知させる。』

#### 【外国語と特別活動】

- 日本が全体的に英語専科でやろうという雰囲気があるが、この学校では特別活動をしっかりやっていると聞いてうれしかった。なぜなら、英語もコミュニケーションのやりとりを中心にやっており、言葉を使って1つの目的に向かっていくところなど、英語は特別活動に近いものがある。

#### 【研究授業】

- 分からないということをメタ認知させることが大切。その後、担任が「困ったことは何？」と聞く。ヘビが snake と分かったら、みんなでその子に snake が好きかどうか聞くともっといい。聞きたい気持ちにさせてから、聞かせることが大切。
- 授業を通して、「自分で英語表現を勝ち取った」という思いにさせたところが良かった。ただ、週に1度しかないので、必ず忘却する。そうすると、しんどい子がしんどいので、授業中に全体で聞くなどして、どんどん言わせていくことが大事。
- 全部で歌が9分は長い。歌は所詮、歌。チャンツは所詮、チャンツ。言語活動ではない。自分の気持ちを言えていないから。歌は半分の長さでもいい。

### 第2回研究授業 7月9日 6年 「Unit3 Let's go to Italy.」

『高学年は言葉にフォーカス。言葉で補い言葉にこだわる授業。』

#### 【外国語と特別活動】

- 特活と外国語ができれば生きていける。
- 好きだと子供の声が前に乗ってくる。
- 弱音がはけるクラスがいい！温かい。
- 外国語の力は、外国語だけでは培えない。

#### 【研究授業】

- 子供が自分の伝えたいことを伝えさせることは大切なことだが、聞いている方は分からなかったらストレスがたまる。分からなさ過ぎると流しにかかる。わからないことをそのままにしない。わからなかったら聞け！！わからなかったときの聞き方を教えておくことが大事。
- 高学年は言葉にフォーカス。スマイル、目線、ゆっくりは外国語活動。高学年は言葉で補い言葉にこだわる授業を。自分の伝えたいことが伝わらなかったら、自分なりの言葉で日本語ではなく、知っている英語でちゃんと説明させる。
- ペアで話をさせる活動では、相手を変えて何度も練習させる意味を子供にも考えさせる。いろいろな人と交流する意味は、多様な意見、見方に触れさせるため。
- 「これでリッキー（ALT）に伝わるのか！！」と、もっと追っていかないといかん！！

### 第3回研究授業 9月22日 5年 「Unit7 Welcome to Japan.」

『「思考」とは何だろう。自分の考えや気持ちを伝えようとしていたのか。』

#### 【外国語と特別活動】

- 「外国語はそんな簡単に話せるわけがない」「間違いながら身につくのだ」この2つを常に言いながら、辛抱させる。そして苦しくならないようなアイデアと工夫をすることが大事。これは、他教科でも同じことがいえる。母語でも間違えて、使って、学んでいくのだからこそ、間違えることができる学級経営を大切にしてほしい。

#### 【研究授業】

- わからない単語に出会ったら、そこで止まるな！読み飛ばして、その前後から、状況から、想像して考えて予想していく力。すぐ調べる前に、推測して「多分こうだと思う」と言ってみることが大切。
- 「思考」とは何だろう。自分の考えや気持ちを伝えようとしていたのか。何て言ったら相手に伝わるのかを考えることが”外国語での思考“。
- 「Fun=楽しい」と、すぐに伝えないことで児童が思考する。楽しい、好き、面白いなど、意味が分かる/分からないは関係なく、4月から何度も先生が使っていく。「先生がどんな時に使うのか考えて」「どんな時にこの言葉が出るのか考えて。そのうち意味が分かってくるから」としておいてよい。自分で推測することで、覚える。
- 外国語の授業が教師主導になるのはある程度仕方がない。インプットがないと、成り立たない教科だから。しかし、その中でもアウトプットの場を設けてあげること。「こんなの言えない。わからない。」という経験をすると、児童が必ず反応してくれる。「だから練習しよう！勉強しよう！！」と持っていく。

### 第4回研究授業 10月14日 4年 「Unit7 What do you want?」

『感情とともに言葉がしみわたる。そんな場面設定と教材であってほしい。』

#### 【外国語と特別活動】

- 第二言語の習得は、このグローバル社会のマスト。だから、外国語がある。
- 外国語活動は、子供の将来の選択肢が増える学習。

#### 【研究授業】

- 子供たちに、もっと理解させるためには、具体物と場面が大切。“What do you want?”を使うのなら、「欲しい！」と子供が言ったものが実際に手に渡らないとだめ。
- 子供が小さいほど動作を必要とする。動作が伴って、言葉を覚えていく。場面設定が伴わない言葉は、すぐ忘れる。
- 感情とともに言葉がしみわたる。そんな場面設定と教材であってほしい。
- 色画用紙でもいいから教具を用いながらやり取りができるとよかった。そのためには、持続可能な教材の作成が必要。色画用紙を○、△、□に切って、それを見立てるだけでも教材になる。

## 第5回研究授業 11月17日 1年 「リッキー先生に自己紹介をしよう」

『初めての英語との出会い。だからこそ本物の英語であってほしい。』

### 【外国語と特別活動】

- 先生が子供の名前を読んだ時、子供が「はい。」と返事をするまで名前を呼び続けることや、子供が、椅子をしまうことの指導。1年生からこういうしつけをしていくことが礎になる。

### 【研究授業】

- 初めての英語との出会い。だからこそ本物の英語であってほしい。例えば、「みんな名前も知っているけど、英語で自己紹介するのは初めてだから・・・。」と、言いながら”Nice to meet you.”という言葉に出会わせる。
- 今回だったら、カードを渡したり、もらったりして「Here you are./Thank you.」の心を豊かにする言葉をやるほうがいいのでは。たくさんカードをもらったよね。「Here you are./Thank you.」言えたかな?というような流れ。
- 子供のコミュニケーションの豊かさのためには、「Here you are./Thank you.」が大事。“Nice to meet you.”は理解できないかもしれない。なぜなら、子供は、納得していない言葉は言わないから。だからこそ、コミュニケーションを豊かにする言葉にフォーカスする。

## 11月17日 2年 「好きなものを伝え合おう」

『子供の思考をせばめているのは教師！本物の英語で豊かな思考を育てよう。』

### 【外国語と特別活動】

- 仲間を集めるというタイプのゲームでは「のけ者」が出やすいけれど、先生がよく配慮していた。
- 床に座ると、寝そべる子ができるものだけれど、”Sit down.”でちゃんと座れることや静かになったところが素晴らしい。
- 意見がパンパンとでる土壤があった。

### 【研究授業】

- 子供の言葉の豊かさがある。大人は辞書で調べている。
- 今日、新しく知った言葉は何かを聞き“I don't like ~.”が出てきた。意味を聞き、「きらい！」と出てきたがそこで、先生が「それ以外は？」と聞いたのが、それがよかった。「違う」「アレルギー」「こわい」と考える子供の思考の豊かさ。子供の言葉への寛容さを学んだ。それは先生が大きく許容したからそれが生まれた。
- ”I like ~.”を学習するときの複数形について、今回はすべて絵カードも複数で言葉も複数形を見せて言っていたからよかった。小学校のうちは複数形でなくても×にはならない。小学生は文法を教えないからこれで大丈夫。”I like cat.”と子供が言ったら、”Oh, you like cats.”といえよ。今日のように絵を見せながらやるときに大事なのは、絵（複数形）と言葉（複数形）が合っていること。
- ジェスチャーは、言葉を補うために使う。ジェスチャーに合わせて英語を言うからタイミングがずれる。3、4年くらいになったら、ジェスチャーは何かを考えさせる。指導するとき、遠い見通しをもっておくことが大事。